

## MV22オスプレイの低空飛行訓練中止を求める意見書

日米政府は、MV22オスプレイを7月末岩国基地に搬入し、10月から普天間基地に配備して訓練を開始しようとしています。

CH46輸送ヘリに代わって沖縄に配備される米海兵隊の新型輸送機MV22オスプレイは、今年4月にはモロッコで6月にはフロリダで墜落。開発の段階からの墜落事故は8回を数え、量産決定の06年から11年の5年間に58件の事故を起こしています。これはエンジン停止などのトラブルの際安全確保に不可欠な「オートローテーション（自動回転）」機能の欠如という構造的欠陥を持っているためと言われています。

このMV22オスプレイを岩国基地（山口県）とキャンプ富士（静岡県）にも分遣隊を派遣するとし、その際、全国7つの低空飛行訓練ルートで低空飛行訓練を実施する予定です。長野県内ではブルールートが明示され、その予想コースは 乗鞍→上高地→大町・白馬・小谷→鬼無里→妙高→飯山・栄村→群馬新潟県境と考えられ、そのルート上で学校・駅・役場・病院など人口密集地上空を飛行する可能性があります。

日米政府はオスプレイに構造的な欠陥は存在しない。条約上日本に拒否権はないと繰り返し言明していますが、オスプレイの安全性の確保、配備においても沖縄県民をはじめ国民を納得させうるものではありません。長野県知事も7月2日に政府にMV22オスプレイの安全性の確認について要請を行いました。

よって国および政府は、市民の生命と生活を守る立場から、次の点について必要な措置をとられますよう強く要望します。

### 記

- 1 MV22オスプレイの安全性への懸念が払拭されない限り、飛行並びにブルールートをはじめ全国での低空飛行訓練を行わないこと

上記については、地方自治法第99条の規定により、意見書として関係機関へ提出するものとする。